

【概要】

2018 年度 民間住宅ローン利用者の実態調査 【民間住宅ローン利用者編】(第2回)

I 調査の概要

2018 年 10 月～2019 年 3 月に民間住宅ローン(フラット35を含む。)の借入れをされた方を対象とし、利用した住宅ローンの金利タイプや住宅ローン選びに関する事項について、インターネットによるアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめたものです。
(参考)調査時期 2019 年 4 月 15 日～4 月 23 日、回答数:1,500 件

II 調査結果の主なポイント

※<>は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 「変動型」の利用割合が6割を超え、「固定期間選択型」と「全期間固定型」は減少 <p. 2>

- ・「変動型」60.3%(前回調査 57.0%)
- ・「固定期間選択型」25.1%(同 25.3%)
- ・「全期間固定型」14.6%(同 17.7%)

2 今後1年間の住宅ローン金利見通しは、全体では「ほとんど変わらない」、「現状よりも低下する」が増加 <p. 11>

- ・全体では、「ほとんど変わらない」が 59.9%(前回調査 49.2%)に、また「現状よりも低下する」が 4.1(同 1.7%)にそれぞれ増加。他方、「現状よりも上昇する」は 27.3%(前回調査 41.7%)に減少。この傾向は各金利タイプで共通

3 住宅ローンを選んだ理由は、フラット35以外では「金利が低い」が、フラット35では「返済額を確定しておきたかった」が最多

<p. 15、p. 16>

- ・住宅ローンを選んだ理由をみると、フラット35以外の住宅ローンを利用した者では「金利が低い」が7割を超えて最も多く、他方、フラット35利用者では「返済額を確定しておきたかった」が 64.1%で最も多かった。